

日本唾液腺学会 理事会決定事項（平成28年5月）

報告事項

（1）学術集会アナウンス先 約350件

医科系大学(120件)、基礎系大学(80件)、歯科系大学(30件)、学会関係(30件)、名会長・名会員、理事、評議員に加えて、前年度の賛助会員、広告掲載・出展協力企業にポスターを配布し、学術集会への参加を呼びかけることとした。

（2）平成28年度海外発表支援基金交付

井 隆司（長崎大学大学院 医歯薬総合研究科 顎口腔再生外科学分野）

【参加学会】 ISSCR2016 国際幹細胞学会（2016年6月22～25日、サンフランシスコ）

【研究発表のタイトル】「血管内皮前駆細胞を主体とした末梢血濃縮細胞群による放射線性萎縮唾液腺再生療法のメカニズムの解析」

審議事項

（1）第61回日本唾液腺学会学術集会開催について

次に示した内容が審議され、承認された。

- 1) 日時：2016年12月3日（土）
- 2) 場所：文京学院大学 本郷キャンパス
- 3) 演題募集 7月1日より募集開始（9月10日締切）

（2）学術集会の企画立案について

第61回学術集会は、会長、副会長が中心となり企画・運営をおこなう。

会長 村上 政隆（自然科学研究機構 生理学研究所准教授）

副会長 高田 隆（広島大学大学院 医歯薬保健学研究科教授）

・学術集会の企画について

第4回ニールスステンセン記念国際唾液腺シンポジウムと第61回日本唾液腺学会学術集会との連携開催をおこなう。

（1）特別講演

1) The application of mass spectrometry to the study of the intact human salivary proteome

Massimo Castagnola

（イタリア、カトリック大学ローマ校医学部生化学・臨床生化学、教授）

質量分析計を用いた、ヒト唾液のペプチド、高分子の同定と解析

2) Medication-induced salivary gland dysfunction

Andy Wolff

（イスラエル、テルアビブ大学ソーラスキー医学センター、教授）

薬物により誘発される唾液機能異常

3) A convenient way of evoking reflex secretion in the rat and its application

Jörgen Ekström

(スウェーデン、イエリテボリ大学神経科学生理学研究所薬理学、教授)
唾液腺を支配する神経系の新しい役割とその信号物質

4) Investigating salivary gland morphogenesis to guide gland regeneration

Matthew P. Hoffman

(アメリカ合衆国、NIDCR, NIH, 基質・形態形成分野、主席研究員)
唾液腺腺房原器からの分子形態形成誘導、唾液腺機能の再生

- (2) 第4回ニールスステンセン記念国際唾液腺シンポジウム報告講演
日本唾液腺学会より第4回ニールスステンセン記念国際唾液腺シンポジウムに演者として派遣された先生方による報告講演を設ける。

(3) 学会奨励賞 選考方法について

1) 選考方法

選考委員が演題に順位を付与し、その平均値の最も少ない演題を学会奨励賞候補とする。ただし、甲乙つけがたいものについては同列とし、その後の順位をずらしていく。

選考委員が共同演者になっている場合は、その演題を外して順位をつける。

2) 選考委員

評議員の中から「基礎的研究」10名、「臨床的研究及び病理診断学的研究」10名を任命する。

以上